

第 29 回基準諮問会議

2017年3月14日、財務会計基準機構（FASF）において第29回基準諮問会議（議長 野崎邦夫住友化学(株) 代表取締役専務執行役員¹⁾）を開催し、審議が行われました。詳細については、財務会計基準機構ホームページ（https://www.asb.or.jp/jp/project/standards_advisory.html）にて「議事概要」を公開していますのでご覧ください。

（審議事項）

1. 前回までの基準諮問会議における提案について

(1) 会計基準レベルのテーマについて

基準諮問会議事務局より、「『経営者が会計方針を適用する過程で行った判断』及び『見積りの不確実性の発生要因』に関する注記情報の充実」については、当面、国際会計基準審議会（IASB）から公表予定の開示原則に関するディスカッション・ペーパー（DP）への我が国の市場関係者によるコメント検討を通じた国際的な意見発信の状況を注視することとし、開示原則に関する DP へのコメント検討を終えた後、本テーマに関する議論を再開することを提案する旨の説明がなされた。

基準諮問会議の委員から提案に賛成との意見が出されたことから、議長より、事務局の対応案どおり、開示原則に関する DP へのコメント検討を終えた後、本テーマに関する議論を再開する旨の発言がなされた。

(2) 実務対応レベルのテーマについて

基準諮問会議事務局より、「無対価株式交換の会計処理」及び「親会社による子会社の吸収合併」については、いずれも実務対応専門委員会に評価依頼中である旨、「会計制度委員会報告第14号『金融商品会計に関する実務指針』における当座貸越契約及び貸出コミットメントに関する規定の改正」については、国際的な規制の見直しについての状況を注視している旨の説明がなされた。

また、「仮想通貨に係る会計上の取扱い」については、実務対応専門委員会の評価の結果を踏まえて、企業会計基準委員会（ASBJ）の新規テーマとして提言することを提案する旨の説明がなされ、オブザーバーの金融庁から、資金決済法に基づく仮想通貨交換業者に対する財務諸表監査制度が円滑に実施されるよう、仮想通貨に係る会計処理の明確化が速やかに図られることが必要と考えられるとの発言がなされた。

1 野崎邦夫氏は基準諮問会議議長を平成29年3月31日に退任されている。なお、湯浅一生氏（富士通(株) 執行役員 財務経理本部長）が平成29年4月1日に後任の議長に就任している。

基準諮問会議の委員からの必要最小限の項目について基準開発を行うという提案に賛成する等の意見を受け、議長より、事務局の対応案どおり、ASBJの新規テーマとして、提言する旨の発言がなされた。

2. ASBJの最近の活動状況について

ASBJ小野委員長及び小賀坂副委員長より、ASBJの最近の活動状況についての報告が行われた。

基準諮問会議の委員からは、収益認識に関する会計基準の開発の状況に対する意見が聞かれた。この点について、ASBJ小賀坂副委員長より、いただいたご意見を参考に検討していきたい旨の回答があった。